



現場で学ぶ 地域の産業

5月29日(火)

妻木小学校の5年生が、地場産業への理解を深めようと、校区内にある7カ所の製陶所を訪ねました。児童らは、陶磁器製品ができるまでの工程や、焼成に使用するガス窯などの機械を見学し、それぞれの工場が取り組んでいる工夫や心掛けていることなどを熱心に聞き取っていました。



水への備えを万全に

6月3日(日)

大雨による出水の危険性が高まる時期を前に、水防の知識や技術を学ぶ水防訓練が行われました。セラトピア土岐前の土岐川河川敷で行われた訓練には、市内7つの消防団員198人が参加し、消防本部職員の指導を受けながら、土のうを使って浸水を防ぐ工法などを学びました。



こころ静かに 風情を楽しむ

6月16日(土)

昨年、織部の里公園拡張オープンが目玉として植えられた約2,000株のハナショウブが見頃を迎え、同園で野だてが行われました。この日は梅雨空となりましたが、訪れた方は、雨の静けさの中で、紫や白、藤色に彩られたショウブ園や登り窯を望みながら、一服を味わっていました。



グルグルまわして 蜂蜜絞り

6月17日(日)

陶史の森の人気イベント「ミツバチ教室」。今年も市内外から参加した大勢の家族連れでにぎわい、子どもたちが、ミツバチのすむ巣箱の観察や遠心分離機を使った蜜絞りを体験して、歓声を上げていました。東濃西部養蜂組合の方によると、今年は雨が少なくおいしい蜂蜜が採れたそうです。



Voice 加藤充敦さん
(6年生)

1人1人を思いやり、命を大切にす優しい心で花を育て、人権の花をいっぱい咲かせたいです。



思いやりのところで 花をいっぱい

6月14日(木)

花を育てることで、命の大切さや思いやりの心を育てる「人権の花」運動。岐阜地方法務局多治見支局から、今年の人権推進校に指定された下石小学校で、花の苗植えがありました。この日は6年生の児童63人が協力して、ブルーサルビアやマリーゴールド、ニチニチソウの苗を32個のプランターに植え付けました。同校では今後、他の学年の児童も花運動に参加し、地域の方への苗の配布など、1年間を通して人権の花運動に取り組めます。



国体を盛り上げよう ギフとフラッグ

6月11日(月)

ぎふ清流国体・ぎふ清流大会を盛り上げ、全国から来場する方々に岐阜県の魅力を伝えようと、県内市町村がその地域の「宝」をモチーフにした「ギフとフラッグ」を作成しています。土岐市でも市内の方から応募のあったデザイン案を1枚の絵にまとめ、ボランティアの皆さんが、約26,000枚もの小さな布をパッチワークのように貼り合わせてフラッグを完成させました。